

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都立動物園グループ	(指定管理者名) 公益財団法人東京動物園協会 (団体の概要) 昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。
指定期間	
上野・多摩・井の頭 H28.4.1～R8.3.31 (10年間)	
葛西 H28.4.1～R5.3.31 (7年間)	

2 施設名	3 収支(単位:千円)					
恩賜上野動物園 多摩動物公園 井の頭自然文化園 葛西臨海水族園		令和4年度	令和3年度	令和2年度	公園別支出額	
	項目	金額	金額	金額		
	収入計	6,839,589	6,460,525	6,185,346		上野動物園 : 2,491,544
	内訳					多摩動物公園 : 2,017,626
	指定管理料	6,830,872	6,422,906	6,120,346		井の頭自然文化園 : 641,744
	利用料金	0		0		葛西臨海水族園 : 1,745,921
	その他収入	8,717	37,619	65,000		
支出計	6,896,836	6,540,974	6,119,404			
収支差	△57,247	△80,449	65,942			

4 管理運営の概要

当協会は、以下の基本方針と主な取り組みに基づき、都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。

1 基本方針

- 「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」という協会の使命の下、「展示の工夫等による、楽しみながら学べる動物園・水族園の実現」、「国内外の動物園や研究機関との協力による、野生生物の保全への貢献」、「公益性と経営感覚をあわせ持った施設運営」の3つの基本方針の実現に向け、4園及び総務部が一体となり、都立動物園・水族園の着実な管理運営を実施する。
- 事業運営にあたっては、第2次都立動物園マスタープランに基づき、動物園・水族館の持つ「レクリエーション」「教育・環境教育」「種の保存」「調査・研究」の4つの機能の強化を図るとともに、持続可能な社会の実現や生物多様性の保全などに向け地球環境に配慮した取組を推進する。また、動物福祉に配慮することで、動物をより健康に飼育し繁殖に繋げるとともに、動物本来の行動を来園者に伝える飼育展示を実施する。
- また、新型コロナウイルスの脅威が続く現下の状況においても、お客様に安心して来園していただけるよう、引き続き感染防止対策の徹底に努めるとともに、各園が特色を活かした魅力的な展示を実施し、多様なニーズにきめ細かく対応するなど、利用者サービスの向上を図っていく。

2 主な取り組み

- ▶野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」
- ▶「第2次ズーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」
- ▶多様なプログラムや情報発信を通じて動物や環境についての学びを提供する「教育普及」
- ▶魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービスを提供する「利用者サービス」
- ▶万全な施設管理や危機管理対策など「安全・安心の確保」

5 管理状況（維持管理）

動物園・水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。

- (1) 施設の点検と保全：日常の施設点検等に基づく計画的な補修や緊急的な対応等により、各園を適正に運営させることができた。
- (2) 園内植物の維持管理と活用：園内の巨木等をめぐるガイドツアーやボランティアとの連携を再開したほか、在来山野草の保護を継続発展させる等、植物資源の活用を進めた。基本的な樹林地管理にとどまることなく園の魅力アップに努めた。
- (3) 自然災害への対応：豪雨等に備えた止水板設置訓練や排水施設の清掃、雪害に備えて単価契約など対応を準備した。
- (4) 省エネ化への対応：照明施設を省エネ効果の高いLEDに変え、機械設備類を高効率化設備に更新した。
- (5) オリ・パラ大会後も見据えた施設補修：観覧施設のバリアフリー化を進め、アクセシビリティや利便性を向上させた。
- (6) 東京都工事への対応：都の大型工事による飼育環境の変化に応じた施設補修を行う等、事業が円滑に進むよう調整・協力するとともに、飼育環境の維持に務めた。
- (7) 動物舎等の維持補修：屋根やトップライトの防水補修等のほか、放飼場の改良等を行い飼育環境の改善に取り組んだ。

6 利用者アンケート結果

実施方法：来園者にQRコードを提示しWEBアンケートサイトで回答していただく。※4段階評価

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
恩賜上野動物園	3.5	3.6	3.6	3.4	3.4
多摩動物公園	3.7	3.8	3.5	3.5	3.6
井の頭自然文化園	3.6	3.7	3.6	3.7	3.7
葛西臨海水族園	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
恩賜上野動物園	3,056,589	コロナ状況の緩和（滞留人数管理方式への移行、団体入園等の再開等）に加えて、シャンシャン返還前の来園需要増、インバウンド需要増等の影響により、おおむねコロナ前の入園者水準まで回復した。
多摩動物公園	781,945	上半期は、コロナ状況の緩和や、夏期の夜間開園などの魅力的な催しの開催により、おおむねコロナ禍前の入園者水準まで回復したが、2月16日からの臨時休園の影響により、年間入場者数は78万人に留まった。
井の頭自然文化園	735,926	コロナ状況の緩和や、開園80周年記念企画など年間を通じての魅力的な催しの開催より、おおむねコロナ禍前の入園者水準まで回復した。
葛西臨海水族園	1,211,312	コロナ状況の緩和や、夏期の夜間開園などの魅力的な催しの開催により、おおむねコロナ禍前の入園者水準まで回復した。
合計	5,785,772	



目指す姿



様々な動物の**魅力的な展示**を通して、**野生生物保全**の重要性を**国内外へ発信する**動物園

- ◎ 野生動物に関する多様な情報発信の拠点
- ◎ 動物の多様な魅力を伝える展示の改善
- ◎ 誰もが利用しやすい観覧環境の充実

動物園のさらなる魅力向上

開園140周年を記念し、年間を通して「SDGs」をテーマにした特別企画を実施

- 感染症対策としてオンライン形式を有効に取り入れながら、140周年を記念した特別企画を精力的に実施した。
- イベントのテーマをSDGsとし、「はじまりはいつも上野から——動物園が、未来の動物たちにできること」をキャッチコピーに、絶滅の危機に瀕している野生動物たちをはじめとするすべての生き物や、環境のために何ができるかを考えることをテーマに記念企画を開催した。

多彩な140周年特別企画を実施し、延べ5,000名(※)以上が参加

(※参加者数の集計が可能な企画の実績合計)



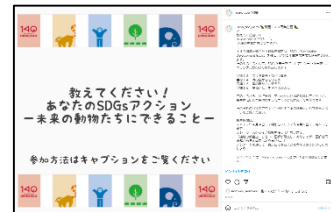
記念ロゴマークを制作
ロゴを使用したグッズも販売した



140年の歴史を振り返る大型パネル展示



買って・食べて貢献する「SDGsプチマルシェ」



教えてください！あなたのSDGsアクション——未来の動物たちにできること

その他の企画

- ・ 140周年記念 公式Instagramの新規開設
- ・ 七ヶ企画「未来の地球へ」、「未来の動物たちへ」、「未来の上野動物園へ」
- ・ ズーネット連載「上野動物園 この10年」
- ・ 飼育係による解説パネル展「見たい！知りたい！どうぶつえん」
- ・ SDGsカラーで装飾した「こいのぼり飾り」の展示
- ・ ぬり絵投稿キャンペーン「#ぬり絵で140周年」 など

希少な野生生物の保全

種の保存という公的機能の明確化！～「希少種保全動植物園等」に認定～

- 環境省から「認定希少種保全動植物園等」制度における「**希少種保全動植物園等**」に認定された。希少種を移動する際に必要な環境省への事前の許可手続きが免除され、個体の繁殖に適した時期にスムーズに移動を行う事が可能となる。
- 今年度は、アカガシラカラスバト、アイアイ、ニシゴリラなど、**ズーストック種 11種の繁殖に成功した**。

希少種保全動植物園等に認定



認定証を手にする副園長

- 動植物園等が持つ「種の保存」という公的機能の明確化や社会的な認知度の向上が期待される。
- 都立動物園等では葛西臨海水族園・井の頭自然文化園に続き3園目となり、全国では15園館が認定されている(23年3月6日時点)。

繁殖した主なズーストック種



アカガシラカラスバト



アイアイ



ニシゴリラ

環境教育の機能強化

UENO ZOO STUDIO を活用したオンライン授業・情報発信

- 安定的にオンライン授業を行えるよう、**機材等を整えた「UENO ZOO STUDIO」を開設し、動物園の環境教育機能を強化した。**
- 専用施設を活用したオンライン授業を実施するとともに、授業の様子をガラス越しに公開し、来園者に取り組みを紹介した。



「UENO ZOO STUDIO」外観



オンライン授業をおこなう動物解説員

- オンラインによる環境教育により力を入れて取り組めるよう、専用施設として「UENO ZOO STUDIO」を開設し、発信のためのインターネット配線や各種の撮影機材、授業で使用する学習教材を揃えるなどの整備を行った。
- コロナ禍の間、来園学習の代替として始めたオンライン授業には、事前学習として有効であることや、動物園に来られない子どもたちともつながりを持てること等の大きな利点がある。
- 2022年度は区部～小笠原村等の遠隔にある学校も含めた**43校 約3,500名**もの子どもたちに対し、「キリンのからだくらし」といったオンライン授業を実施した。

上野動物園の特性を生かした連携・協力

近隣博物館・地方自治体・保全団体等と連携した教育普及事業

- 国立科学博物館、東京国立博物館と連携して「上野の山で動物めぐり」を開催したほか、富山県とライチョウの生態や保全に関するパネル展、WWFジャパンと野生動物のペット化問題に関する普及啓発活動を実施するなど、**さまざまな主体と連携・協力して教育普及活動を展開した。**



国際博物館の日記念 上野の山で動物めぐり
(国立科学博物館、東京国立博物館と連携)
参加人数 129名
満足度が **3.89(4点満点)**と非常に高かった



ライチョウの生態や保全活動に関するパネル展
(富山県と連携)
質問を募集する企画では、61件のさまざまな質問が寄せられた



飼育員さんだけが知ってるコツメカワウソの
ウラのカオ@上野動物園
(WWFジャパンと連携)
参加人数 200名

都の要請に適切な対応

ジャイアントパンダ シャンシャン の中国返還

- 東京都と中国野生動物保護協会が締結した協定書に基づき、**関係機関等と連携して無事にシャンシャンを中国へ返還した。**
- 最終期を事前抽選制とし**安全・安心な観覧環境**を提供したほか、シャンシャンの思い出を振り返り感謝する特別企画を開催した。



イベントバナー



観覧最終日のパンダ舎



返還当日の様子

- 「花ひらけパンダの未来——ありがとうシャンシャン」企画を多数実施した。
- オンライン講演会「シャンシャンの歩みとパンダの未来」は、再生回数が **累計3万回** を超える多くの視聴があった。
- 返還当日は、28社の報道メディア等が取材に訪れ社会的な注目を集める中、事前の綿密な調整に沿って事故なく安全に移動を完了させた。

多摩動物公園 Tama Zoological Park

目指す姿



多摩丘陵の自然を活用し、**ダイナミックな展示**と**野生動物の繁殖**を推進する動物園

- ◎ 豊かな自然を活かした生息環境の再現
- ◎ 野生動物の繁殖基地としての機能充実
- ◎ 野生生物保全センターでの保全の推進

希少な野生生物の保全

希少動物の繁殖・普及啓発事業の積極展開

- ブリーディングローン等で他園と連携し、今年度はライオン、シセンレッサーパンダ、マレーバク等、**ズーストック種 20種の繁殖に成功した。**
- チンパンジーの子は野生由来の個体の精子を活用した人工授精により誕生しており、**貴重な血統を残すことに成功した。**
- 普及啓発事業も積極的に展開し、「世界ゾウの日」イベントや、ケニアの野生動物保護をテーマにした企画等を開催した。

繁殖した主なズーストック種



チンパンジー



ライオン



シセンレッサーパンダ



マレーバク



トキ

「世界ゾウの日」における普及啓発



□ 世界ゾウの日

「世界ゾウの日(8月12日)」に、ゾウのことをより深く知り、野生のゾウに関心を向けてもらうことをねらいとして企画した。



生態系におけるゾウの役割を楽しく学べる動画を制作

「ケニアにおける野生動物の過去、現在、未来」開催



□ 「ケニアにおける野生動物の過去、現在、未来」(第8回都立動物園アフリカフェア)

現地の関係者がケニアで行われてきた野生動物の保護や普及啓発について紹介したあと、多摩動物公園園長を交えてパネルディスカッションをおこなった。



ウォッチングセンター内の動物ホールで開催
64名と多くの参加があった

環境教育のさらなる充実

一層内容が充実した企画展の開催、オンライン学習コンテンツの新規開発

- 企画展「カブトムシってどんなむし？」では、体重の測定等、夏休みの自由研究のヒントになる内容を取り入れ展示を充実させた。
- 主に幼児を対象とした**新規のオンラインコンテンツ「Kids and Zoo(キッズ アンド ズー)」**を制作・公開した。

夏の企画展「カブトムシってどんなむし？」



ウォッチングセンター内の展示会場



モニター解説をみる親子

幼児向けオンラインコンテンツ Kids and Zoo



オンラインで楽しく学べる Kids and Zoo



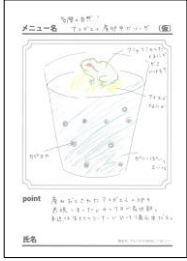
動物のぬりえ

動物園のさらなる魅力向上

園内教育プログラム・イベントの充実

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底しながら、コロナ禍の間休止していた園内で実開催する教育プログラム・イベントを再開させた。
- 4園合同企画として、SDGsとその達成に向けた各園の取り組みを紹介するクイズラリーを開催した。

飼育の日(4.19) 飼育系のデザートドリンクコンテスト



飼育係が書いたラフスケッチ(左)と完成した商品(右)

- 4/19飼育の日に合わせて、飼育係ならではのちょっとマニアックなこだわりを詰め込んだドリンクの企画構想や監修を行った。

Dream Night at the Zoo



当日の正門(左)と閉園後の園内を観覧する参加者(右)

- 障害のあるお子さまとそのご家族を閉園後の動物園に招待した。
- 過去で最も多い3,390名の参加があった。

SDGs デジタルクイズラリー いきものの未来のためにできること【4園合同企画】



各園の取り組みについて楽しく学ぶことができるクイズラリー



多摩動物公園内に設置したラリースポット(一部)

- 小学生でも保護者と一緒に楽しみながら学べる内容とした。(例:販売商品(ノート)についている認証は? →FSC認証 など)
- 4園全体で4か月間開催し、合計約9,000名の参加があった。

特性を生かした業務展開

自然豊かな多摩動物公園の特性を活かした魅力の訴求

- 園内でヤマユリを見られる場所を案内した「みどころマップ」を新たに制作した。適切な維持管理だけでなく、普及啓発活動を展開し、園内の緑や植物を有用資源として最大限に活用した。
- 園内の湧き水を利用した水辺で「ホタル観察会」を開催した。オンラインで事前学習ができるよう工夫し、感染症対策を図るとともに、学びを深めやすいプログラムにした。

ヤマユリみどころマップ 2022



- 2017年からヤマユリの保護を続け、今年は約1,400株(保護活動前の約3倍)を確認した。
- これだけの数のヤマユリが見られる場所は都内ではとても貴重であり、園内を巡る際に役立つ「みどころマップ」を新たに制作し、配布した。

ホタル観察会



- 園内にある湧き水を利用した湿地を活用し、ゲンジボタルが自然繁殖により自生できる環境を目指し、環境整備を実施している。
- 2014年より、園内の湧き水を利用した水辺にてホタル観察会を実施しており、今年度はオンラインによる事前学習を行った後、園内で113名(3日間開催合計)が観察会に参加した。

井の頭自然文化園

Inokashira Park Zoo 

目指す姿



いつでも**気軽に楽しみ**、充実したふれあい**体験を通じ**、**野生動物を守る心**を**育む動物園**

- ◎ メダカからツシヤママネコまで日本産動物の保全と普及啓発の拠点
- ◎ 動物を身近に感じる教育プログラムの充実
- ◎ 美術や音楽などの文化も楽しめる魅力的な施設運営

文化園のさらなる魅力向上

開園80周年記念企画を開催 これからも地域に愛される魅力的な文化園へ

- 「地域や来園者とのつながりを大切に、感謝の気持ちを伝え、園の魅力を発信していこう！」という考えのもと、開園80周年を盛り上げる様々な企画を実行した。
- ロゴマークを制作し特設ページを開設したほか、園内はフラッグ等で装飾し、記念イベントを多数開催した。
- 地元商店などによる「まちのどうぶつえんマルシェ」は大盛況で、これまで長い歴史を通して育んできた地域との協力関係を最大限に生かし、祝福ムードとともに街の賑わいを創出した。

ロゴマーク制作



80周年記念ロゴマーク

特設ページの開設



特設ページ

園内の装飾等



園内のフラッグ(左)と記念デザイン入場券(右)

80周年記念 主な園内開催企画



飼育係からのお便り制作・配布



地元のお店が文化園に大集合！ まちのどうぶつえんマルシェ



園長の動物園ガイド

街中での宣伝広告



JR吉祥寺駅フロア広告



京王吉祥寺駅デジタルサイネージ



ラッピングバス(関東バス)

地域とのコラボレーション



吉祥寺を中心とする11店舗で文化園モチーフのオリジナル商品を販売

そのほかの企画

- ・ 上野動物園 開園140周年・井の頭自然文化園 開園80周年記念企画展「日本の動物園と水族館は東京から始まりました」
- ・ 「どうぶつのごちそう広場」
- ・ 「アトで文化園の見どころチェック！」
- ・ 特設展「文化園よりひと足お先にー水生動物86年の歩みー」
- ・ 動物解説員による「文化園歴史たんけん」
- ・ 彫刻園芸芸員によるガイドツアー「彫刻園歴史ガイド」
- ・ 「絵本歌い屋まっとうの絵本の弾き語りライブ」
- ・ 「生きもの好きあつまれー！／“水グモもんもん”の生きものたち」
- ・ 「文化園 樹木冊子」

文化園のさらなる魅力向上

彫刻園史上「初」の他館連携企画展の開催・3箇所巡回特設展の開催

- 彫刻館史上「初」の他館連携企画として、台東区立朝倉彫塑館と連携し、「北村西望と朝倉文夫——二人の関係性」を開催した。
- ゾウと移動動物園の歴史を振り返り、当時の子どもたちの思いを紹介しながら平和を考える巡回特設展を開催した。

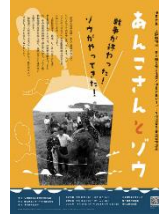
彫刻園企画展「北村西望と朝倉文夫——二人の関係性」



ギャラリートーク

- 彫刻園の企画展として、初めて他館（台東区立朝倉彫塑館）と連携して開催した。代表的な作品の貸し借りがおこなわれ、二人の芸術家の表現の違いを間近で鑑賞することができた。
- 双方の学芸員が彫刻館の展示前で解説を行う「ギャラリートーク」を開催し、18名の参加があった。

伊豆大島・井の頭自然文化園・上野動物園 巡回特設展
「あんさんとゾウ——戦争が終わった！ゾウがやってきた！」



特設展ポスター(左)

ゾウ舎で展示(右)

- ゾウと移動動物園の歴史を振り返り、当時の子どもたちの思いを紹介した。
- 主催：(公益)東京動物園協会 共催：伊豆大島ジオパーク推進委員会 後援：東京都大島支庁

希少な野生生物の保全

希少動物の繁殖・普及啓発事業の積極展開

- 国内外の動物園と連携して希少種の繁殖に取組み、今年度はアムールヤマネコやニホンカモシカ等、ズーストック種 13種の繁殖に成功した。
- 普及啓発事業の一環として、ツシマヤマネコ保全に取り組む対馬市やNPO法人などと連携してヤマネコ祭を開催した。

繁殖した主なズーストック種



アムールヤマネコ



ニホンカモシカ

- 井の頭として16年ぶりにアムールヤマネコの自然繁殖に成功した。
- ニホンカモシカの繁殖に成功し、日本動物園水族館協会のニホンカモシカ管理計画に貢献する成果をあげた。

ヤマネコ祭



各団体の活動紹介ブース



ミニマルシエ@ヤマネコ祭で販売
“ヤマネコ米”使用クラフトビール

- 対馬市やNPO法人など、ヤマネコや野生動物を守るための取組みをしているさまざまな団体による活動を紹介した。

特性を生かした業務展開

3年ぶりに開催！ 秋の夜長の自然文化園

- 2019年以来、3年ぶりに夜間開園イベント「秋の夜長の自然文化園」を開催した。
- 生き物だけではなく文化・芸術と親和性の高い「自然文化園」ならではの企画であり、10月8日の延長時間帯入園者数は1,526名とたくさんの来園があった。アンケートの結果、95.5%が「十分満足、まあ満足」と回答し、非常に高い満足度を示した。



虫の声を聴こう



彫刻園ミニコンサート



コケ玉ミニ盆栽

そのほかの企画

- ・ 飼育係の生きものガイド—夜編—
- ・ 彫刻に光を入れるツアー
- ・ モルモットふれあい～秋の夜長編～
- ・ 樹木ガイド「井之頭御林の樹木」
- ・ 「夜の動物園DE新旧園長トーク」

目指す姿



「生態」から「食育」まで楽しく学べる水族館

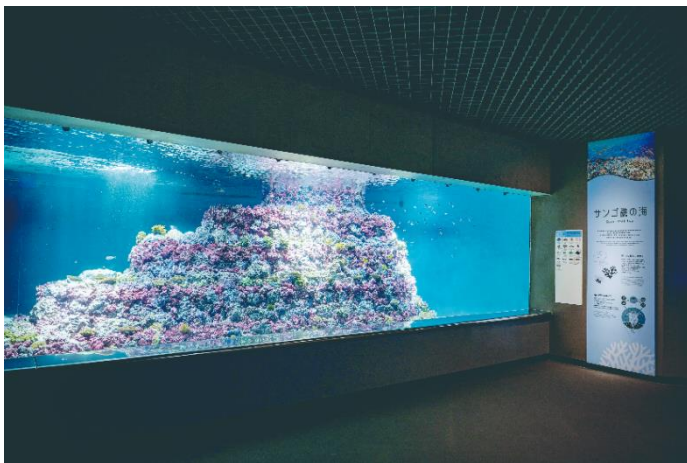
- ◎ 東京湾から外洋、世界各地の海の生態をいきいきと再現する展示
- ◎ 海と人とのつながりを情報発信
- ◎ 海洋生物研究の拠点

水族園のさらなる魅力向上

水族園の新たな顔 サンゴ礁の海 展示開始 ・ 開園記念日プログラムの実施

- 特殊なLED照明や脱窒ろ過装置などの先進設備を民間企業と共同研究で開発し、閉鎖循環の生きたイシサンゴの水槽としては国内最大規模の「サンゴ礁の海」をオープンした。
- マグロについて「見る、聞く、学ぶ」をテーマに、リアル開催だけでなく、過去2年間でノウハウを培ったオンラインや両者のハイブリッドによる各種開園記念日プログラムを、他団体と連携しながら実施した。

新水槽・サンゴ礁の海



サンゴ礁の海



- 本館に入って最初に目にする展示をリニューアルした。(旧「大洋の航海者 サメ」水槽)
- 光あふれるあたたかい海の中で、様々な形のサンゴのなかまが海底を覆い、たくさんの生き物がそれらサンゴを利用してくらしている様子を再現した。

開園記念日イベント 「見る、聞く、学ぶ 海の生きもの」



開園記念日(10月10日)にあわせて、見て、聞いて、学べる特別企画を実施

- ① くらべて学ぼう
「くらべるマグロシート」配布
- ② 聞いて学ぼう
「マグロ飼育担当によるスタッフトーク」
- ③ YouTube配信「かさりん放送——初代スタッフに聞いてみた」
- ④ 講演会
「バイオリギングが解き明かすマグロの謎、サメの秘密」
- ⑤ オンラインで体験ツアー「おいしい魚サケとマグロのひみつをさぐれ！」など



配布した観察用シートと、観察する子ども



オンラインで体験ツアー「おいしい魚サケとマグロのひみつをさぐれ！」

- くらべて学ぼう「くらべるマグロシート」では、楽しみながら観察できるシートを使って、マグロの特徴を他の魚との比較を通して学んだ(3日間 計6,000枚配布)。
- オンラインで体験ツアー「おいしい魚サケとマグロのひみつをさぐれ！」では、山形県の柵川鮭漁業協同組合のふ化場と採捕場、水族園の三か所をつなぎ、マグロとサケの体のつくりや繁殖、食べることについて比較し、実際にサケの採卵から受精までを観察しながら、2種の魚を食べ続けるためにできることなどを考察した。

希少な野生生物の保全

希少動物の繁殖・普及啓発事業の積極展開

- 株式会社海遊館と協力して、**世界で初めてミナミワトビペンギンの凍結した精子を用いた人工授精に成功した。**本種における人工授精の技術を確立させ繁殖を推進するとともに、この技術を国内外の水族館や動物園に普及させることで、**絶滅のおそれがある野生下のミナミワトビペンギンの「種の保存」にも貢献していく。**
- 今年度はオウサマペンギンやウミガラス等、**ズーストック種 10種の繁殖に成功した。**
- 北海道羽幌町の関連団体や高校生と連携し、海鳥の保護やケイマフリの繁殖生態をテーマにした講演会を開催した。

世界初！！ ミナミワトビペンギンの凍結精子を用いた人工授精の成功



人工授精をする様子

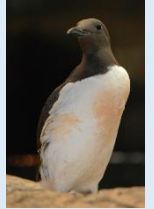


ミナミワトビペンギン
IUCNレッドリスト:VU(絶滅危惧種)
国内11園館で飼育されるも個体群が高齢化

繁殖した主なズーストック種



オウサマペンギン



ウミガラス

講演会「つどえ オロロ〜！」(北海道羽幌町の関連団体や高等学校と連携)



講演会の様子(会場41名+オンライン40名)



パネル展(レストラン脇)



人と海鳥の共存に向けた取組を紹介

羽幌町およびシーバードフレンドリー認証制度の紹介

環境教育の機能強化

特設展示「イキモノマヂカ」オープン！！

- サメやエイにふれあいながら学べるコーナー「タッチンフィーリン」の終了にともない、本館1階「東京の海」エリアに、**生き物をより間近に感じられるしかけがいっぱいの特設展示「イキモノマヂカ」**を開設した。
- 1日2回、スタッフによる教育プログラムを行い、今年度は**累計3,346名もの参加者に対して生き物観察のポイント**を紹介した。



「イキモノマヂカ」全体の様子



映像や標本などで「食べる」を楽しく学べる



スタッフによる教育プログラム

- 展示は「タベルノマヂカ」「ソゾノマヂカ」「ミクロナマヂカ」「ノゾイテマヂカ」の4つのエリアから構成している。
- 各エリアの展示に合わせ、「いきものたべる」、「みくろのせかい」等のプログラムを提供した。
- 生き物を間近に感じる「体験」とおとして「生き物っておもしろい、もっと知りたい」、といった気持ちを喚起することを狙いとしている。